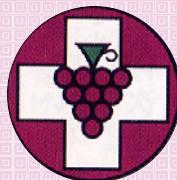


日本福音ルーテル教会 女性会連盟 第22期 146号

## 会報



総主題

「キリストが望んでおられる」 喜び・祈り・感謝

2013.4.15

発行 日本福音ルーテル  
教会女性会連盟  
〒169-0072 東京都新宿区  
大久保1-14-14  
発行者 加藤 和子  
編集者 寺嶋 文世  
印刷 平山印刷出版

## 主題聖句

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。  
これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられる  
ことです。」  
テサロニケの信徒への手紙一 5.16～18

あなたへ



デンマーク牧場福祉会 こひつじ診療所  
院長 武井 陽一

## キリストが望んでおられること

第一テサロニケ書は、パウロが最初に記した手紙であり、新約聖書で一番初め（紀元50年頃）の書と言われます。この手紙の前半に、迫害などの苦難の中につれて、まるで孤児のように引き離されたいたテサロニケの兄弟たちに再び顔と顔とを合わせて具体的な交わりを求めるといふパウロの切なる願いが記されていました（2章17節）。パウロは彼らと心ではいつもつながつており、彼らを「主イエスが来られるとき、その御前で、あなたがたこそが、私の希望、喜び、誇るべき冠です」（19節）と言い切っています。パウロはこの手紙の結びに「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな事にも感謝しないさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」と記しました。

私たちも、いつも兄弟たちと顔をあわせて礼拝にあづかることがゆるされていなかったり、神の栄光にあづかる希望を誇り、迫害される立場にかわって苦難をも誇る者とされました（ロマ書5章2、3）。主にある喜びの中で、今は会えずにお互いに苦難を担いあつている兄弟たちに向けて、こそキリストが望んでおられることとして「いつも喜び、祈り、感謝しなさい」とパウロは勧めました。

私たちも、いつも兄弟たちと顔をあわせて礼拝にあづかることがゆるされていなかったり、神の栄光にあづかる希望を誇り、迫害されるわけではありません。病を負い、年を重ねる中で、独り神を仰がざるをえなくなることがあります。遠く離れて苦闘されている兄弟もいます。施設や牧場の働きをしています。聖日ごとに教会に出席できないが日々自分の体を神に喜ばれる聖なるいるけれども、喜び、祈りあいつつ歩みたいと願っています。